

第3分科会 第5会場

「安心して住み続けられる
まちづくりのとりくみ」

ホテルグランヴィア岡山 3F クリスタル(B)

演題番号 3-5-1

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
福島	福島医療生協	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
アキバ 秋葉 みち子	理事	第3分科会

発表テーマ
地域の小さな交通 ～渡利おでかけサポートの会～

内容（発言要旨）

高齢者の足の問題は、全国的に大きな問題となっています。一時期、高齢者の車の事故が大きく取り上げられ、悪者的なニュースが流れましたが、地方のバスもない地域は、病院にも買い物にも行けません。移動支援は、高齢者の生活と健康を輝かせる大切な取り組みです。しかしとても難しい問題だと考えていました。

私たちは、その問題をどのように解決できるかを長年模索してきました。一昨年より、福島市の土船地区で始まった「地域の小さな交通」は高齢者の通院や買い物支援以外にも引き籠もり者の社会復帰の手助けともなっています。このモデルケースの仕組みを取り入れ、6月より運航を始めることになりました。この方法は、いたって単純で私たちの既成概念を吹き飛ばすほど画期的です。現在、福島市内で私たち福島医療生協以外でも運航を始めようとしている地域が増えています。9月までに「地域の小さな交通」がどのようになっているのかも含め、報告いたします。

所属している組織の概要	
福島医療生協の活動地域は、福島県福島市。活動地域の人口は約275,000人。所属する共同組織の人数は約28,500人。医療生協わたり病院と2つの診療所、サ高住を基盤に地域の医療と介護を担っています。	
TEL 080-1853-6006	メール ayako@fmc.u-coop.or.jp

演題番号 3-5-2

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
滋賀	しが健康医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
タチイリ 立入 ヨシハル 善治	湖南甲賀支部長	第3分科会

発表テーマ
高齢者の移動手段確保へ

内容（発言要旨）

しが医療生協湖南甲賀支部では湖南市のまちづくり協議会と協力をして、地域の公共交通の実態のアンケートをとり、結果を湖南市に提出をし、湖南市都市建設部との話し合いを持ちました。その結果を踏まえ、湖南市を運行するコミュニティバス「めぐるくん」では、利用の少ない2路線（医療センター線、甲西南線【妙感寺ルート、美松台ルート】）について、運行の効率性向上にむけ、令和4年4月より2か年の予定にて「予約制小型乗合タクシー あいのりこなん」に移行する実証運行を実施しました。当初の想定を超える利用がありましたが、その分市の予算を大幅に上回る事となり、「あいのりこなん」事業は休止されてしまいました。利用されていた市民は大混乱となりました。民間の送迎サービス「恩おくりの会」が立ち上げられており、湖南市社協の協力、湖南市とも協議をし医療生協として、高齢者の移動手段をどう確保するかを考えていきたい。

所属している組織の概要	
活動地域は、滋賀県湖南市、甲賀市。活動地域の人口は約14.3万人。支部に所属する共同組織の人数は約2455人。	
TEL 090-8931-7415	メール vlp13yt@gmail.com

演題番号 3-5-3

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
群馬	群馬中央医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ナカジマ スズ 中島 進	理事	第3分科会

発表テーマ
高齢者の通院手段の課題に対する地域連携と取り組みの拡充

内容（発言要旨）

群馬県は自家用車の保有率が全国一位といわれ、バス等の公共交通が衰退し、日常生活の足、とりわけ高齢者等の足の確保が重要な課題である。移動支援としてドアtoドアが望まれることが多いが、それは限定的と言わざるを得ない。

群馬中央医療生協では、2022年10月から、市の委託を受けてコミュニティバスを運行している地元のバス事業者と協力して、病院受診等の事業利用者へ無料の乗車チケットを配布する取り組みを始めた。そして、病院で運行している無料バスについて、そのコミュニティバスと平行している路線を整理して、受診者が多い地域の運行回数を増やした。どちらも利用者が増えている。

ここに至るまでに、地元の公立大学の研究室や交通問題に取り組むNPO、バス会社などつながりを持ち、まずは公共交通のことを知らなければとバスの乗り方教室を行ったり、リハビリ職員がバス会社の要請で車いす利用者へのサポートについて講習会を行ったり、「住みよい街づくり～バス停チェック～」などの取り組みを行ってきたので報告をおこなう。

所属している組織の概要	
群馬県全域を定款としている生活協同組合。主な活動エリアは県中央から東部。組合員数は35,539人。医療機能の中心は前橋協立病院で二次救急から地域の医療・介護を支えるケアミックス型の病院。	
TEL 027-265-3531	メール honbu-katsudobu@gmail.com

演題番号 3-5-4

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
大阪	健康友の会みみはら	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ジョウ セツコ 城 世津子	NPO 法人 「結いの会ともうず」 副代表理事・事務局長	第3分科会

発表テーマ
通院だけじゃない！ お買い物から墓参りまで・・・高齢者の外出の楽しみを支える「おでかけ助っ人隊」

内容（発言要旨）

健康友の会みみはらの「ふれあい支え合い」活動の一環として、2019年度より「福祉有償運送事業」の認可を受け5年目を迎えました。国交省による認可制度である本事業については、旅客の対象や運送範囲、受領する対価、使用車両および運転者登録、運行管理義務、輸送実績の年度報告義務など多種にわたる要件が求められます。

利用登録者数は事業開始時の50名から現在は140～150名まで増加、運転ボランティア協力者も徐々に増え、登録車両7台がフル稼働、通院送迎はもちろん、買い物やお墓参り、友の会企画への参加など、利用の目的や行先はいろいろです。

この数年、コロナ感染症予防対策に伴う経費増、ガソリン代高騰などによって運営維持に苦慮する場面を経験しましたが、公共交通機関を使っていきたい場所に行けない高齢・要介護者は年々増加、「高齢者の外出の権利と楽しみを支える」との理念でスタートした「おでかけ助っ人隊」は、今やなくてはならない活動となっています。

今回は本事業の概要と送迎実績の推移、事業継続についての課題などを報告致します。

所属している組織の概要	
大阪府堺市にある社会医療法人同仁会を中心とする「みみはらグループ」の一員として活動。活動地域は、堺市を中心に隣接の高石市、和泉市を含め26支部。所属する共同組織の人数は23年度末時点で、41,010世帯94,111人。	
TEL 0472-280-5887	メール jo-s@mimihara.or.jp

演題番号 3-5-5

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
愛知	尾張健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ヤマギシ 山岸 センゴ 専吾	稲沢支部 支部役員(医療 法人尾張健康友会 理事)	第3分科会

発表テーマ
まちなみチェック～誰もが安心して歩道を利用できるように～

内容（発言要旨）

「ショッピングモールに行くまでの県道が危険なので、改善してほしい」との会員の声に応じて、約1.5kmの県道のまちなみチェックを6名で実施しました。

チェックの結果、幅の狭い道路に無理して歩道を設けたため、車いすがやっと通れる幅でした。一応舗装されているも、コンクリートの継ぎ目から雑草が生えていたり、電柱が道路に立っており、より歩道幅を狭くしていました。また、車道と田んぼに挟まれており、落差が大きく、フェンスやガード也没有。とても車いすでは通れない状況であることが分かりました。

県道のため愛知県の道路管理者へ連絡を取り、懇談しました。話された内容に対して努力しますとの回答を得ました。その後、すぐに雑草は取り除いてもらうことができました。歩道の拡張はまだ行われていません。

私たちが安全安心に住み続けられるよう様々な個所を視察し、今後も行政と粘り強く交渉を重ねていきたいと思えます。

所属している組織の概要	
愛知県一宮市千秋町にある医療法人尾張健康友会を母体とする尾張健康友の会は、会員数4951名、8支部あります。 稲沢支部は一宮市の隣にある稲沢市（尾張健康友会の南の地域）を活動地域です。会員数は388人です。	
TEL 0586-76-8312	メール tomonokai@chiaki.com

演題番号 3-5-6

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	林友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ズシ 頭師 ユキ 裕貴	事務局長	第3分科会

発表テーマ
精神障害者の医療費助成実現をめざして

内容（発言要旨）

全国には重度の障害者に医療費が1割負担となる助成制度がありますが、岡山県の「重度心身障害者医療費公費負担制度」は精神障害者が対象外で、全国的にも制度の遅れた自治体となっていました。当事者・家族の切実な願いである医療費助成制度実現に向け、賛同する団体・個人と共に「精神障害者の医療費助成を実現する会」を結成して県への要請署名に取り組みました。約半年間で8,566筆の署名を集約した運動の経過を報告します。

所属している組織の概要	
林友の会は岡山市にある公益財団法人林精神医学研究所の共同組織で会員数約3,400人	
TEL 086-272-2957	メール hamawww@po.harenet.ne.jp

演題番号 3-5-7

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
熊本	くまもと健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
イノウエ スミ 井上 晋	事務局長	第3分科会

発表テーマ
補聴器購入に自治体独自の補助制度を求める「熊本みみの会」の取り組みについて

内容（発言要旨）

■熊本みみの会の結成

難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど生活の質を落とす大きな原因となっています。高齢化が進む中で補聴器を必要とする多くの方から「経済的負担が大きく利用できない」という悩みが多く寄せられています。このような声を署名で集め熊本市へ届けようと年金者組合、生健会、新婦人、友の会が中心となって、2023年1月に「熊本みみの会」を結成しました。県内で助成制度があるのは4自治体です。

■学習を重ね、署名活動にも積極的に取り組む

世話人会では言語聴覚士から実践的な話を聞くなど学習に特に力をいれています。街頭署名は毎月1回行っており、30分で80筆が集まるなど関心の高さにびっくりすることもあります。当面の目標は5,000筆です（現在3,500筆）。これまで高齢介護福祉課、副市長と懇談を行ってきました。住民の要求をうけて補聴器購入補助制度が全国各地にひろがっていることの紹介、当事者の声を行政に届ける貴重な機会となりました。市議会には毎回、陳情書も提出しています。

■共同組織とともに

聞こえの不安は誰にでも共通します。党派を超えた活動にしていくためにも共同組織とともに多くの団体を巻き込み、巻き込まれながら運動を大きくしていきたいと考えています。

所属している組織の概要	
活動地域は熊本県熊本市中央区・東区中心。活動地域の人口は8万人。くまもと健康友の会の会員数は4,927人（2,440世帯）。	
TEL 096-383-8707	メール kumatomo2003@yahoo.co.jp

演題番号 3-5-8

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
兵庫	東神戸医療互助組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ハマモト ツルオ 濱本 鶴男	芦屋支部運営委員	第3分科会

発表テーマ
市民の命と健康を守るために — 芦屋保健所の統廃合計画反対と子供医療費無料制度拡充のたたかい

内容（発言要旨）

1. 芦屋保健所統廃合計画の撤回

2020年3月、兵庫県は芦屋保健所を宝塚保健所に統合し、芦屋は「窓口業務だけ」にする方針を発表。芦屋支部は伊藤舞市長(当時)に面会し、「①県当局に対し、芦屋保健所の存続を求めること。②保健所の人員不足を解消し、検査体制の拡充を求める」要望書を提出。芦屋支部も参加する「あたたかく民主的な市政をめざす芦屋市民の会」は20年9月、芦屋市議会に「芦屋保健所の存続と拡充を求める請願」を提出。「請願」は全会一致で採択され、国に対し「意見書」を提出。支部独自で3度の街頭署名活動。兵庫県は22年1月の県議会で、芦屋保健所の統廃合計画は「いったん凍結」と答弁。

2. 子ども医療費無料制度の拡充

2023年5月、「あたたかく民主的な市政をめざす芦屋市民の会」は、「芦屋のすべての子どもたちの医療費を無料に」の要望書とともに500筆の署名を、高島峻輔新市長に手渡した。請願項目は、①子ども医療費無料制度を18歳までに拡充すること、②4割を超える子どもたちが医療費無料制度から除かれている「所得制限」を止めること、の二点。2023年12月、高島市長は、「2024年7月より、子ども医療費無料制度を18歳まで拡充する」と表明。

3. 教訓 芦屋保健所統廃合計画の撤回や子ども医療費無料制度の拡充など、市民の命と健康を守る大切な課題は、私たちが声をあげ、運動すれば実現の可能性が広がることがわかった。

所属している組織の概要	
支部のある芦屋市の人口は4月1日時点で92,720人、42,910世帯。所属する組合員世帯数は不明除き390世帯。	
TEL 0797-38-8909	メール t-hamamoto@tiara.ocn.ne.jp

演題番号 3-5-9

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
福岡	北九州健康友の会 本部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ヨシヒサ 吉久 キスノリ 安則	会長	第3分科会

発表テーマ
熱中症対策に関する自治体交渉 ～気候変動適応法の改定を受けて～

内容（発言要旨）

2023年4月、気候変動適応法の改定が5年ぶりに改定された。今回の改定では、熱中症対策として、熱中症アラートの伝達、クーリングシェルターの設置が義務化されている。法改定を受け、北九州市に十分な対応を求めため、友の会、社保協、健和会の連名で「熱中症対策に関する要望書」を提出し、市と懇談した。要望書の内容は「熱中症予防パンフレットの各家庭への配布」「あんしん通報システムの普及強化」「熱中症特別警戒情報の伝達方法の開示」「クーリングシェルターになる要件の開示」など。懇談会には友の会10名を含む13名が参加し、市に対して十分な対策が講じられるよう要請した。

（その時点で回答が得られなかった事項についての回答を得るため、2024年6月頃に改めて懇談の設定を申し入れており、その結果についても報告する予定）

演題番号 3-5-10

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
京都	丹後健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ヤマモト 山本 トモユキ 智之	事務局長 山本 智之	第3分科会

発表テーマ
介護に関する聞き取り調査報告

内容（発言要旨）

介護保険法施行以来、介護需要が増加する一方で、介護保険料や利用料の引き上げ、特別養護老人ホームの入所制限など、介護を必要とする方々が利用できるサービスに制約が生じています。今後も、さらなる負担増やサービスの制限が危惧されます。また、介護職員の不足も深刻な問題となっており、私たちの活動する京都府北部でも職員不足の影響が顕著で、施設の事業が一部休止に追い込まれる状況です。この問題は地域の方々に大きな影響を及ぼしています。このような状況を踏まえ、私たちの活動地域である京都府京丹後市において「介護に関する聞き取り調査」を実施しました。

2023年6月から、会員や地域の方々、介護事業所に対し、アンケートや直接訪問を通じてご意見を伺い、貴重なご意見をいただきました。また、この調査結果を踏まえ、2024年1月には京丹後市との懇談を実施し、集めた意見をまとめたものを、市長へと手渡しました。

所属している組織の概要	
活動地域は、福岡県北九州市と京築地区。所属する共同組織の世帯数は約3万世帯。8つの支部で活動している。	
TEL 093-592-3366	メール kanezaki@kenwakai.gr.jp

所属している組織の概要	
活動地域は、京都府北部の丹後地域。主な活動地域である京都府京丹後市の人口は約5万人。会員数は約800人。	
TEL 0772-68-5017	メール tangoizika@axel.ocn.ne.jp

演題番号 3-5-11

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
滋賀	膳所診療所	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
タカトウ イサオ 高頭 功	膳所診療所 共同組織担当事務	第3分科会

発表テーマ
京阪電車石坂線のホームベンチ・スロープ・階段手すり設置を求める請願行動

内容（発言要旨）

ぜぜ健康友の会（膳所診療所内）の最寄り駅である京阪電車、石坂線錦駅のホームは人がギリギリすれ違えるほどの狭いホーム構造をしています。ホームへの登り口も急な階段しかなく手すりも高い位置にあります。さらにホームに置いていたベンチが撤去されていました。ホームが狭く電車で当たりそうになる線路に落ちそうになる危険、乗降に苦勞する、休む場所がなくしんどい、という意見が会員から寄せられました。

高齢者でも利用しやすい駅づくりをしてほしい、JRなどではバリアフリー化が進んでいるので京阪電車もおこなってほしい、という想いの元で請願行動をしようと決めました。

請願に先立って現地を見てみようと考え、役員で錦駅だけでなく、近隣12駅を一駅ずつ降りて調査しました。

調査結果の問題点を報告し、京阪電車石坂線の事業所へ改善請願を提出しました。

詳細の報告と今後の運動については演題発表でお伝えします。

所属している組織の概要	
活動地域は、滋賀県大津市。活動地域の人口は約30万人。所属する共同組織の人数は約1850世帯。	
TEL 090-6232-9411	メール zeze@shigamin.jp

演題番号 3-5-12

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
神奈川	医療生協かながわ生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
アウチ セイキ 阿内 正喜	藤沢支部 支部長	第3分科会

発表テーマ
低山会班のとりくみ（組合員の増やし方伝授します）

内容（発言要旨）

低山会班で神奈川県は大和市にある「泉の森」にウォーキングに出かけそこで昼食時に豚汁とラーメンを作ってみんなで食べた時のエピソードを演劇で発表します。ちょっと面白く、かつ、嘘はなく、組合員の増やし方のカギを伝えます。

所属している組織の概要	
藤沢支部は組合員数810人。藤沢診療所、おひざ元の支部です。低山会班は以前は登山も行っていたものの高齢化もあり、現在は里山、若しくはウォーキングを年に数回行っています。	
TEL 045-862-9834	メール sosiki01@mc-kanagawa.or.jp